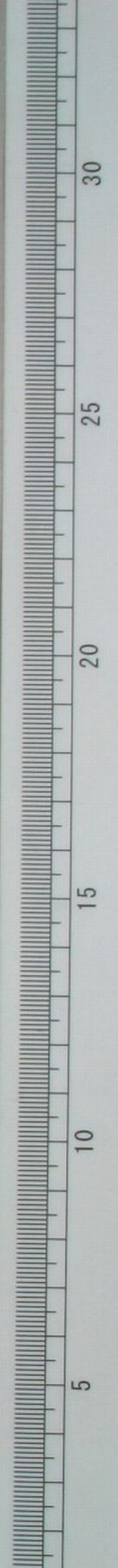




新
編

小倉文庫
イ 16
43



門 116
號 43
卷

寬永二十年版



新編塵劫記

下卷

昭和二十六年
六月二十日
受入

新編塵劫記三目錄

第一 ゆき子だまの事

第二 梅の入目を町中へよりのりり事

第三 立木れあがきを移す事

第四 町はりのり事

第五 祓すまゐんの事

第六 ひふく一ふれ事

第七 日本國中一歌女の殺乃事

第八 知れずまゐんの事

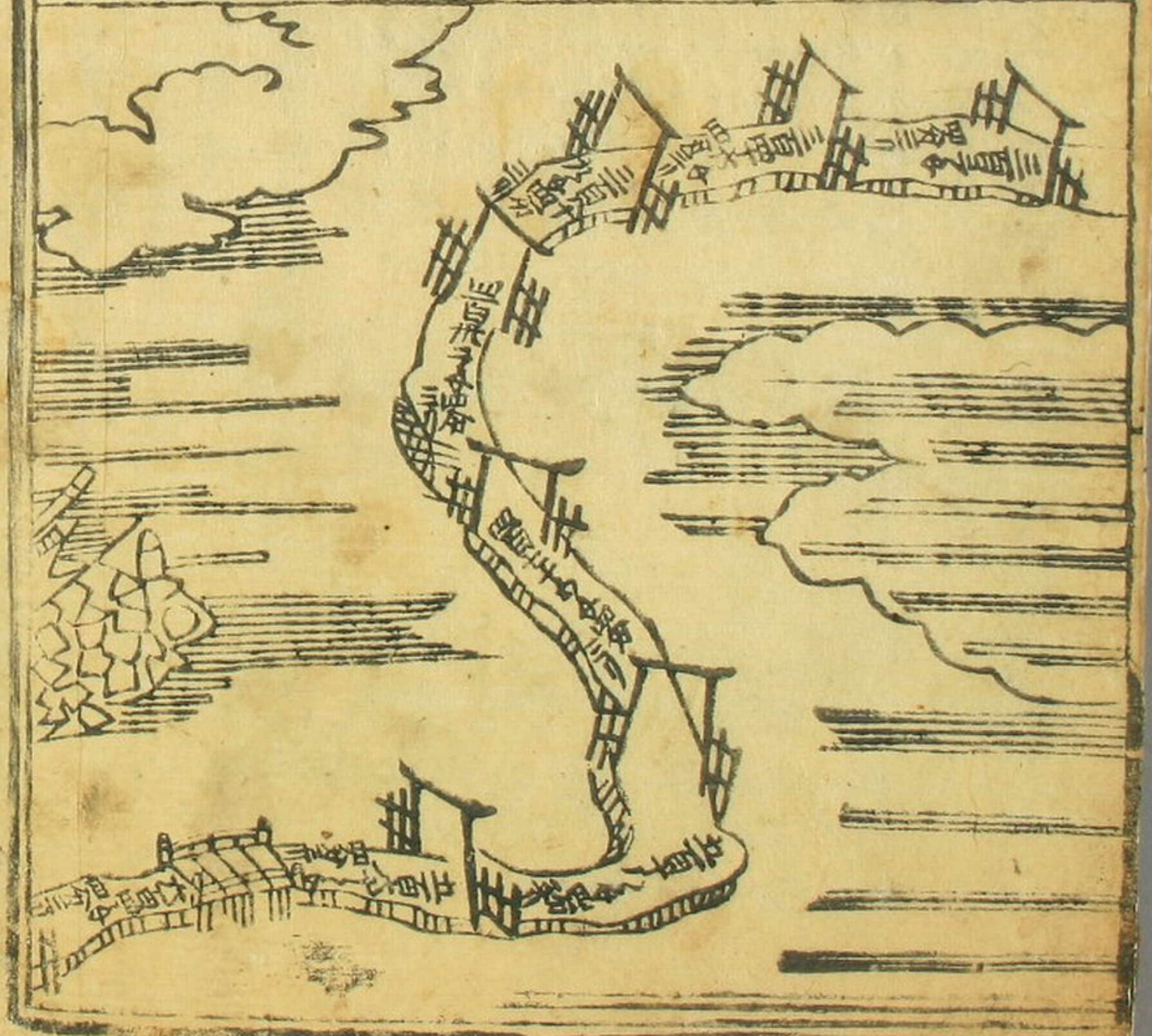
第九 布一たんの糸ぬきの糸を移す事

第十 きぬぬす人を一ぬ事



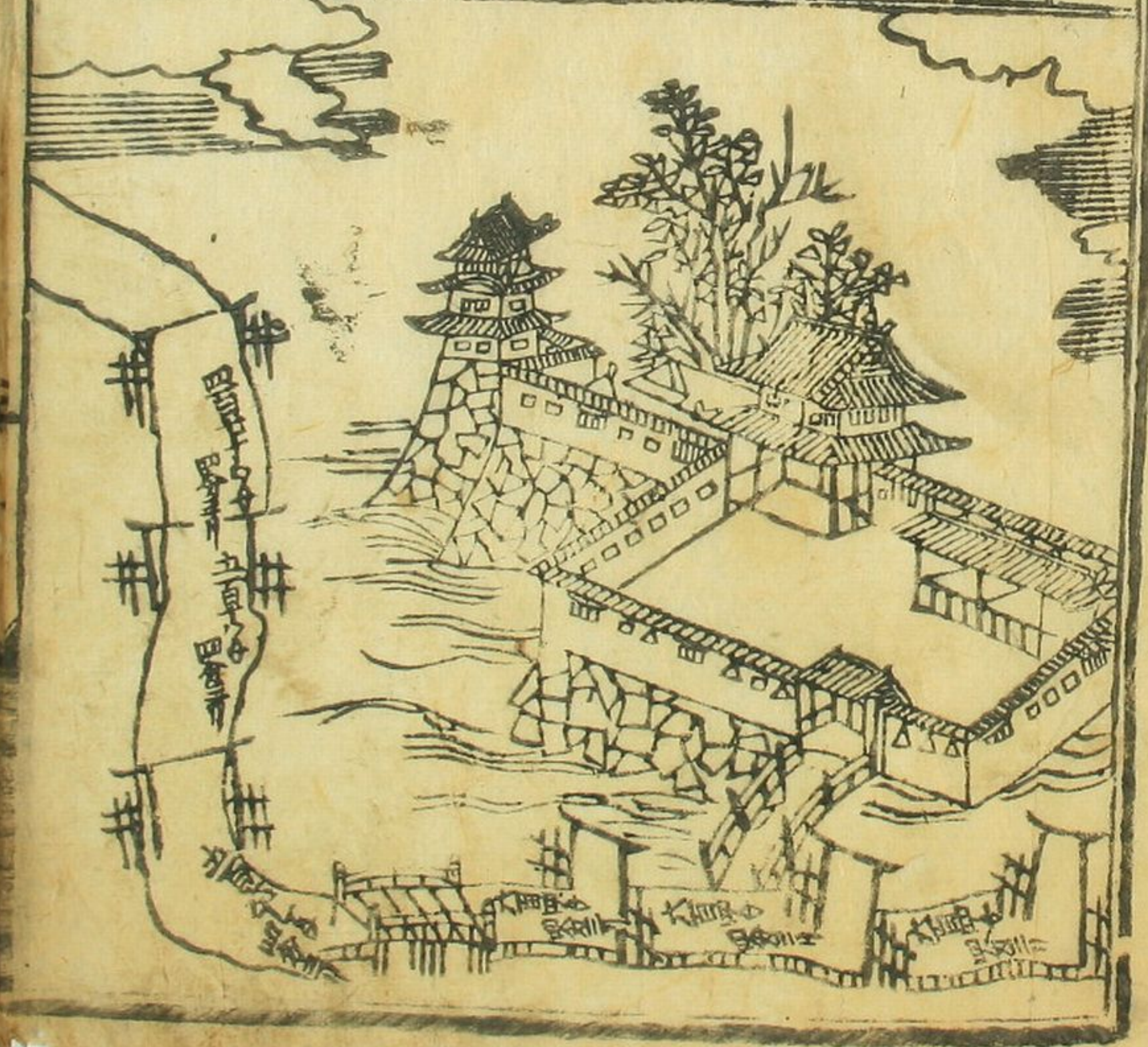
第一 橋の狭

一は池水小坂小
 水を黄目入連け
 内七黄目より中
 一より二町小坂
 のくーのあーい
 田町之これ未分
 一は一は一は一は
 と一町て派一敷
 とりて一は一は一は
 小一は一は一は一は
 小七町と小一三町を
 町町が一は一は一は

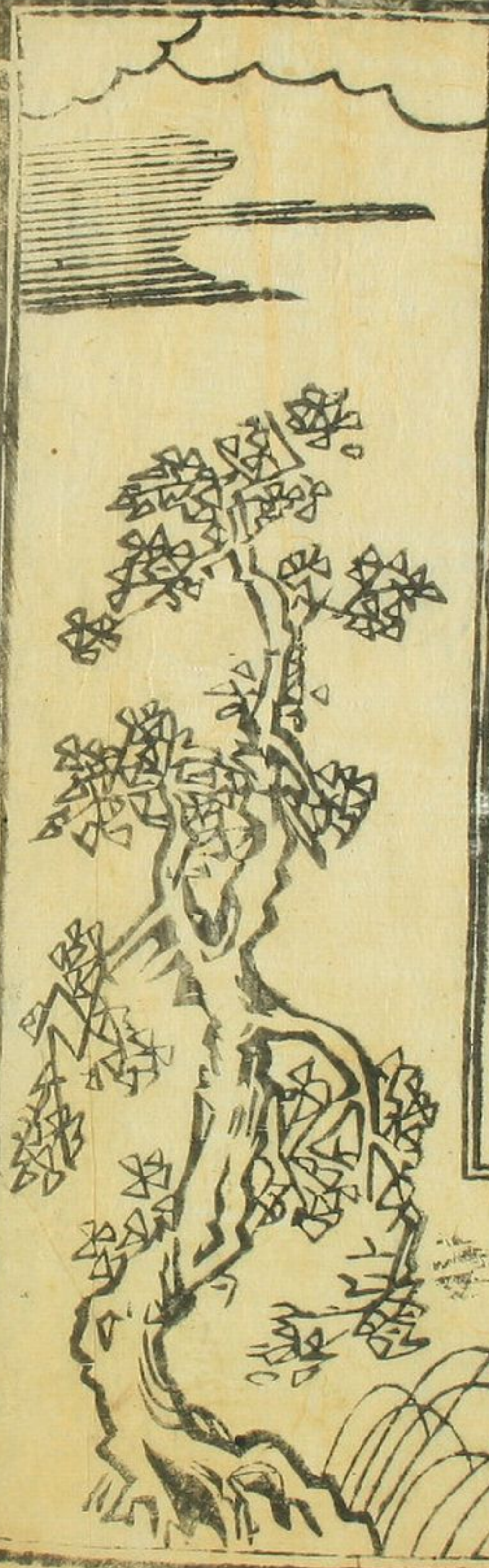


二は七町の法二三

法六石正堂分三町也
 法六七町の法二三
 六七これ合九八三三町
 の法二三これ合六五
 二これを右の正八加て正
 室三これ小正三三町と
 くれれを黄目言六於小
 名七これ小七黄目
 を加て八黄目右三後
 小正小これと想町
 教正正町小これ六
 百正正正三三町と

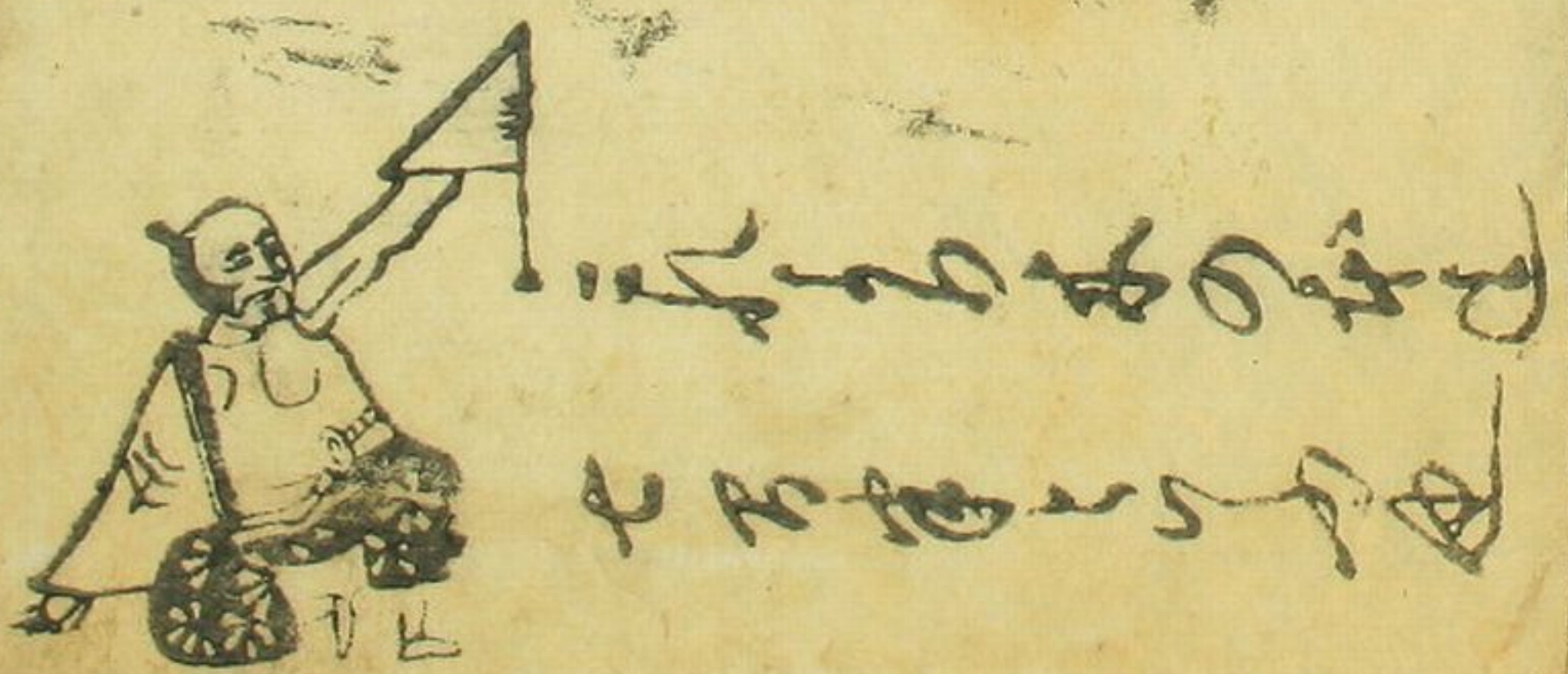


たらし木の枝とほりし事
 ▲これこそまあるのくねとく
 しらまといり木のよまを
 見してそそぬり木のや
 まもしりてあゝとらふ也



木のあゝとせらむといふ

ほふふおのこはわくよとりて
 又ももこくととりてさるれ
 すもふいそくおねあそむお
 りりとほりてかくのこもト
 ねすももらとのこももええ
 とくもものすまくとえしん
 おもももあまのひもそせら
 あれへ又居たけりをせま
 入し也



▲福子と昔七於六億子昔及於七千万子に百万金に達する
しに昔一百万金を合つて六千万金ありて一日に

米子三百万石に計りて昔七千万石に計りて合

▲右の福子と尾おははる尾おは付して海とわら
て入廣とわらりし時めよりいづくそとつし時

七於六万石に計りて昔七里於小町に計りて

但一里とつて六町ありて一町に六町ありて一百万石を計り
して福子と昔七千万石あり

算六

ひよく一と一の事

▲世に老ふとひよく一と一の事とて昨日ふあふ程
よめいといふ事

五於三万石に計りて昔九万石に計りて又あふと

右の同様計りて昔三万石に計りて又あふ

三合又於九万石に計りて昔九万石に計りて又あふ
但九万石に計りて

▲米二万石とひよく一と一の事とて昨日ふあふ程
又二万石に計りて昔九万石に計りて又あふ

但一様に六万石入りてあふりて昔三三三粟と

合八粒九石に計りて昔八合に計りて昔三三三粟と

▲大豆一粒をひよく一と一の事とて昨日ふあふ程
といふ時ふ穀と右と同ふ也但一斗ふあふ程と

子●於三石七斗に計りて昔一合に計りて昔三三三粟と

▲麦子一粒をひよく一億ありて昨日ふあふ程と
又億三子に計りて昔七万九千石に計りて又あふ

但一斗ふあふ程入りてあふりて昔三三三粟と

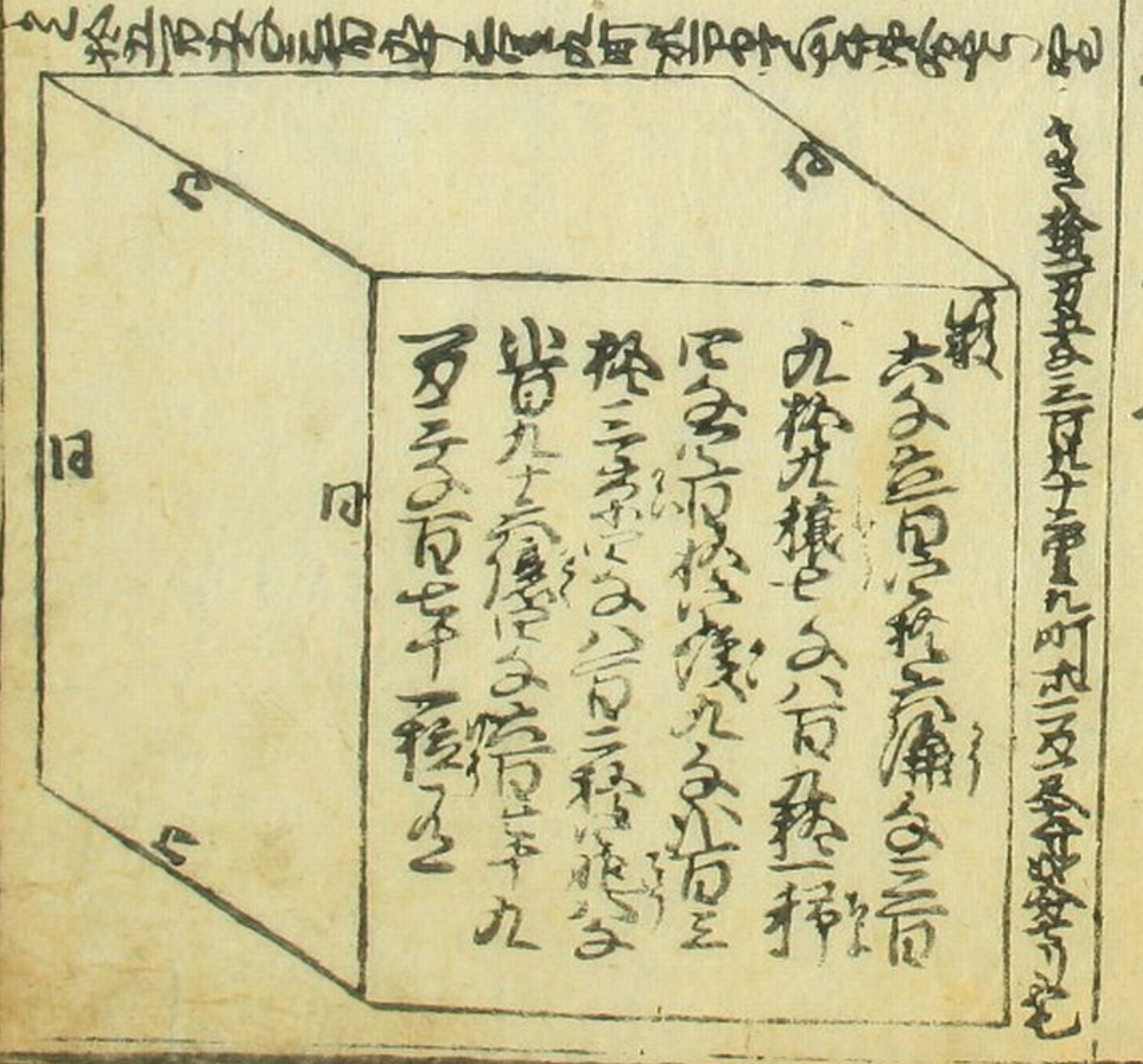
合是石三沙中麻少八二七七七段二圭ハ粟少あり
 法一粒を八寸人のふれほく或るふれはちるす
 三寸し又或るびまうととといくちる法とま
 口傳ふる二粒小四万粒入とち一分二粒つありふあり
 一寸二方小六万子粒入と二粒小一寸二方小物中
 二方ありあゆふ六万子粒を六粒小半小あこれ
 一粒小四万粒入とまあり

▲灰子一粒をひふく一ふありて六十日少は
 合ふ口の松小北九子三石九松九積六五三石松方子三石松粒
 石を練少くくして

石松方七子三石七松四石八沙練三石六石三石二圭ハ粟あり
 ちる練目用を法ありて

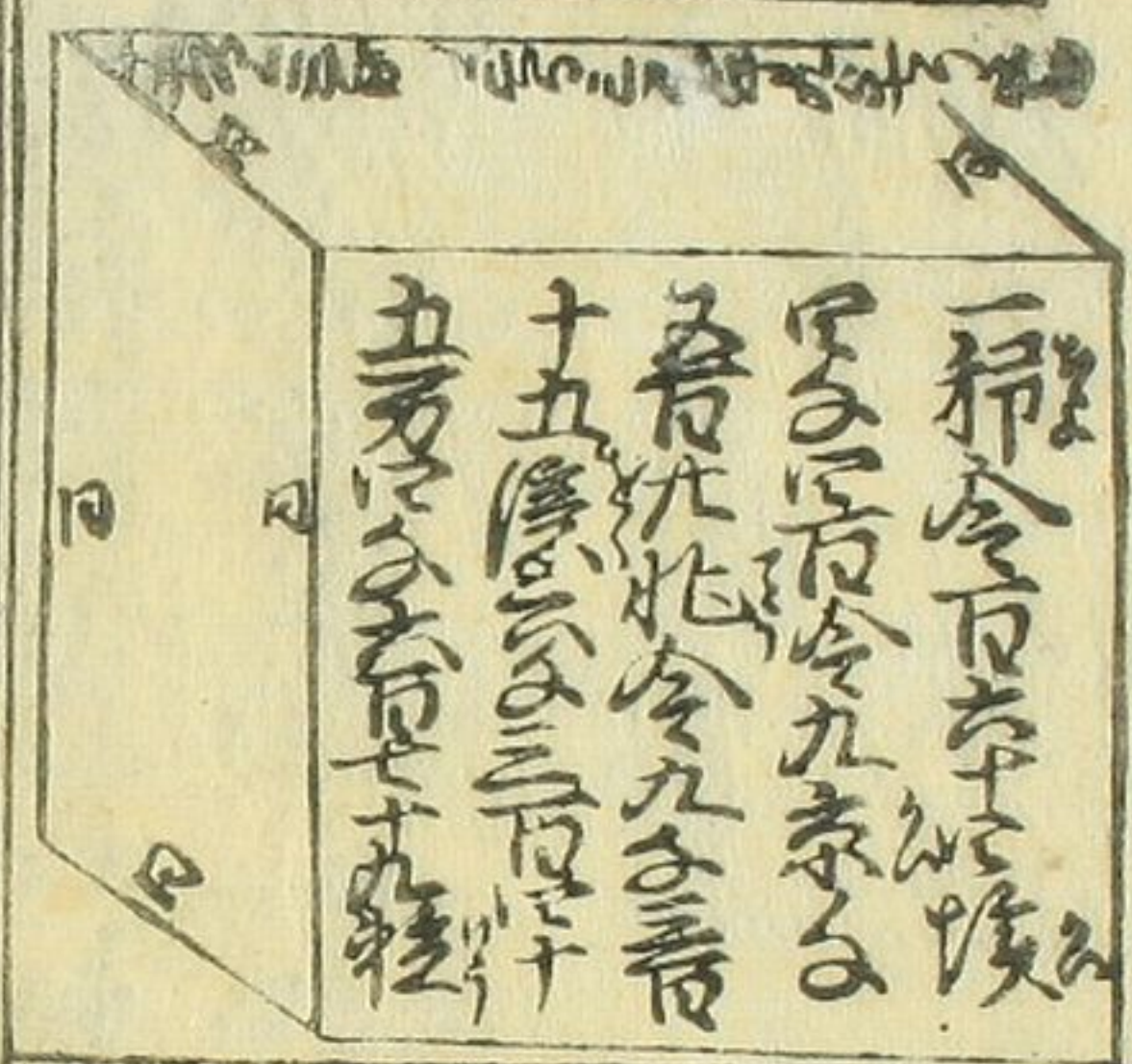
長此二方口尺九寸五分二毛あり二方口尺八寸五分ありて
 よももふし右同前ありて也

▲灰子一粒 をひふく	一割りふ
一ふあり	六寸あり
て百廿日	一町どふ
の方の較	六寸あり
ハ用を法	一割りふ
ありあふ	六寸あり
ありふ	一分あり
りふあり	粒あり
はりあり	はりあり

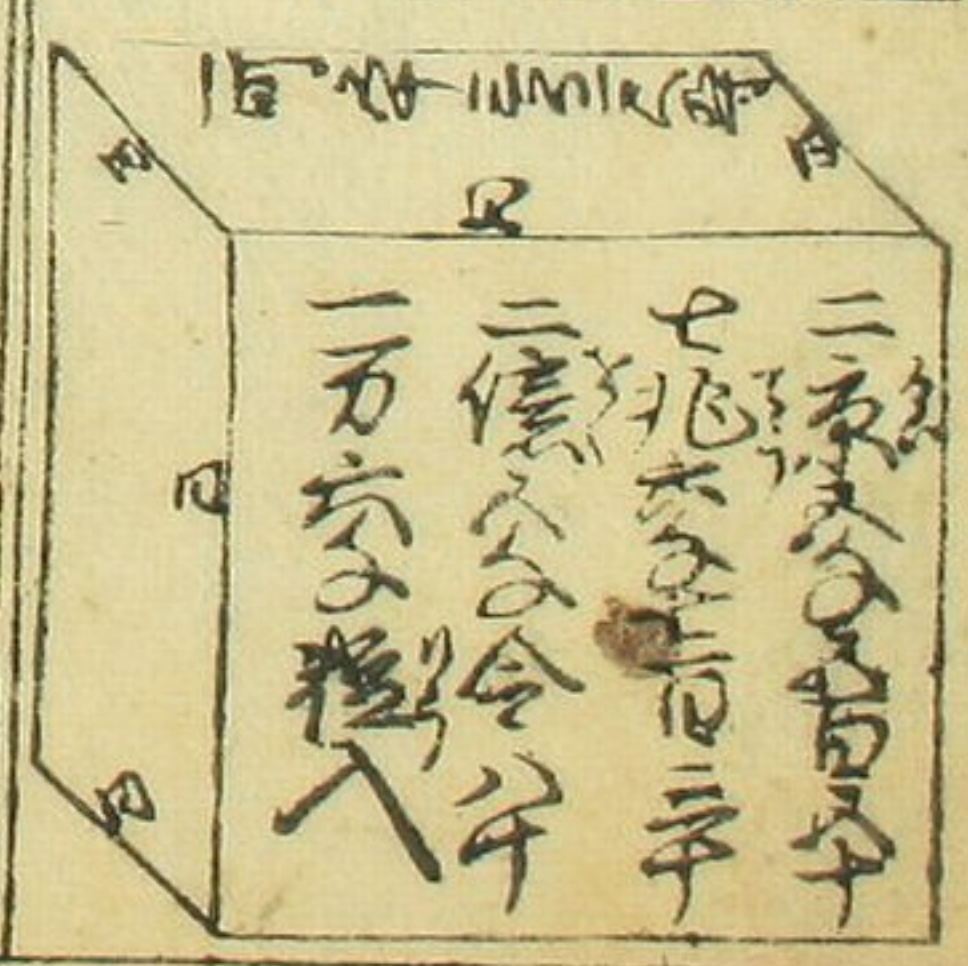


右のあまり一秤全百六粒に
 埃四子百粒を束七の令に
 儀九子三百束万九百粒七粒
 之れを用立法なり

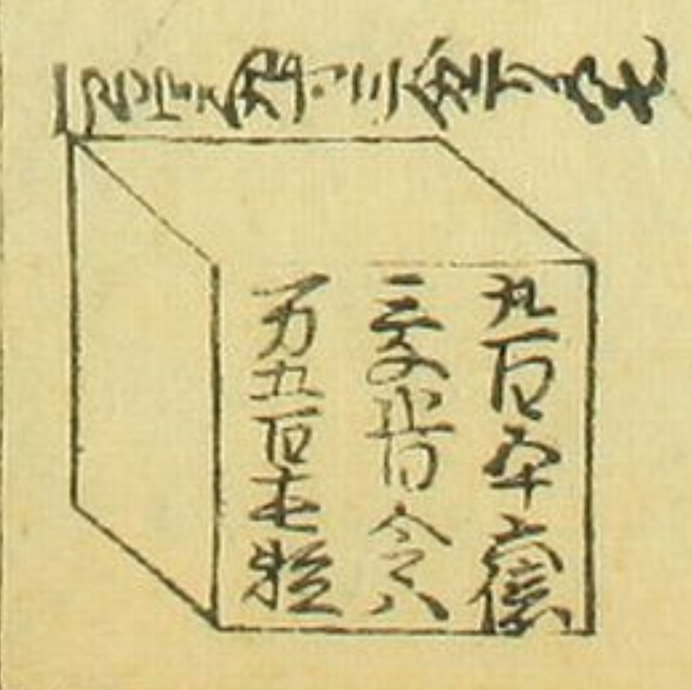
松六里
 三町三
 百三尺
 三寸分
 七リ毫



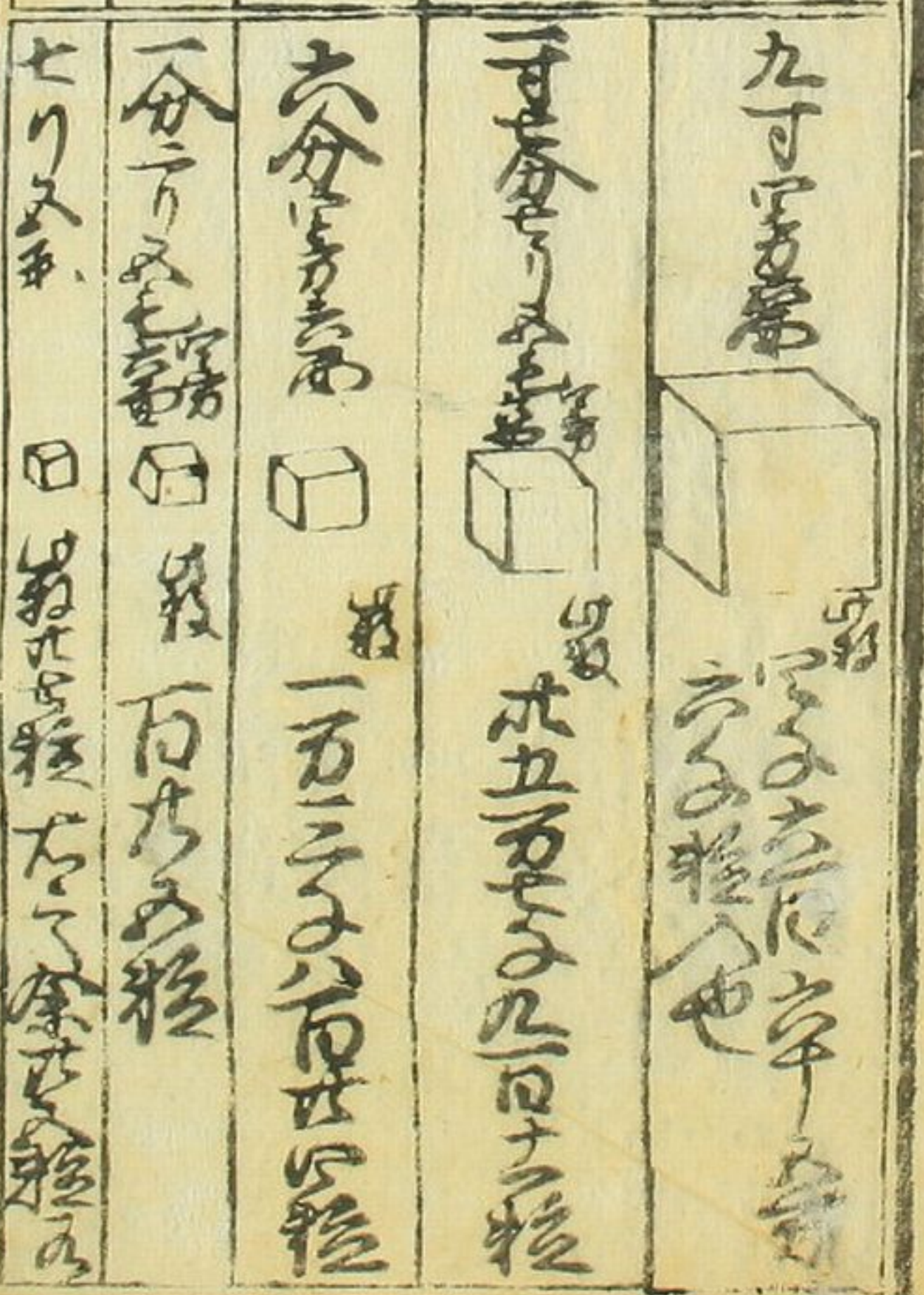
右の余り用立法なり
 一町六粒三
 万二尺九寸
 四万六面



右のあまり用立法
 ありて是れなり
 三万九千九百
 三万九千九百



右の余り百七
 九万九千九百粒を
 右の余り百七
 九万九千九百粒を
 右の余り百七
 九万九千九百粒を
 右の余り百七
 九万九千九百粒を



右の女子一粒を百七日のあひびふくく一と一の粒
 を一万里四方の妹あそびくくわてふれん

三億七千万粒二万五千六百九粒七十八万五千六百九粒

右の心持あそび事ふ別可まふくく事也

日本國中一男めて殺獲事

▲男殺ハ○合松九億九千万九百九十八人ありと云

但依ハ小妻の儀ハ七千万億と云

▲女殺ハ○合松九億九千万九百九十八人ありと云

○男如合松八億九千万九百九十八人あり

女の人殺事人小一日み人しんまみし一目中何れ

○此方中百九十九松石中世味あり

又二年の方中あふりしと云時小但三百松四日

○八百松七千万九百七松石九斗五斗也

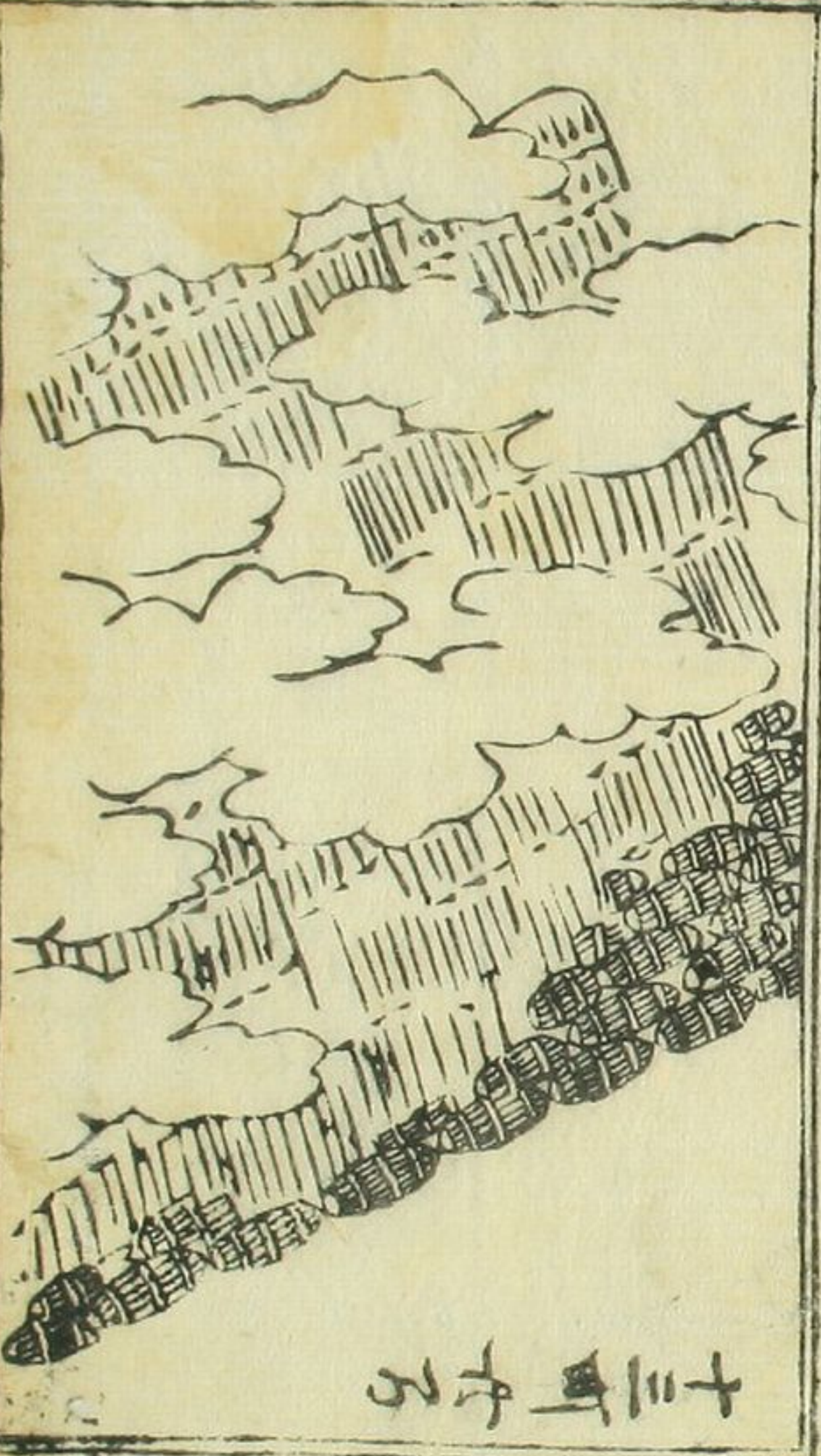
▲右之人殺事方小居る内ハあふりしと云

松町松八百六尺字一分三リ四方ふのりとし也

法ハ二坪小五二人つ居るはりりして松八億九千万九百

男八人をもてス中一といハ四十方子三百四坪あふこれと
用立法中一といハ三百八十八六六九と掛けけんり
下より六尺寸をわかれハ六百八十八尺字一分三リと
云る是と云す中一といハ幾もと云れし也

▲日本國中六松六ヶ所くの東凡ノ字力石を居り



山中興十

あつし山集と
高松石くし
てあふりし
そしつ時ふ
松二町七町
四方あり

新十人

一百万石の人数をいふは、
てんごふふりていふは、いふは、いふは、

あつて、いふは、いふは、いふは、いふは、
 ○是より八丈八寸のほりりあり
 ○是町へ六中町のほりりあり
 ○是町へ六中町のほりりあり
 先百万人といふは、いふは、いふは、
 百三松三町にあり、いふは、いふは、
 三松六町、いふは、いふは、
 出三松、いふは、いふは、
 いふは、いふは、いふは、



右百万人れ
 人数二とて
 おあつて、いふは、いふは、
 いふは、いふは、いふは、
 いふは、いふは、いふは、
 百松五里、いふは、いふは、
 いふは、いふは、いふは、
 いふは、いふは、いふは、
 いふは、いふは、いふは、

用平法を商實法を除き事

計を万又子百九坪を
これを口方ふあて
あふりくめあそ
りふ時ふ

百九坪三万口方

百九坪

万又子
九坪

百九坪

簡しき

万 千 百 十 一

実ちき

万 千 百 十 一

法なり

万 千 百 十 一

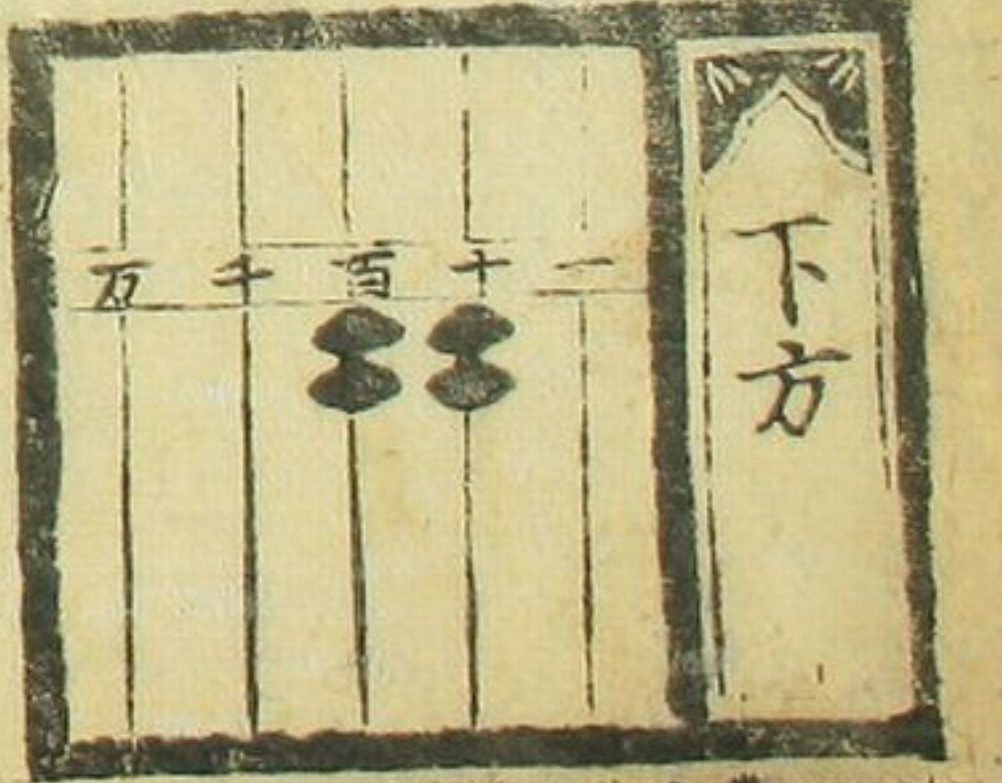
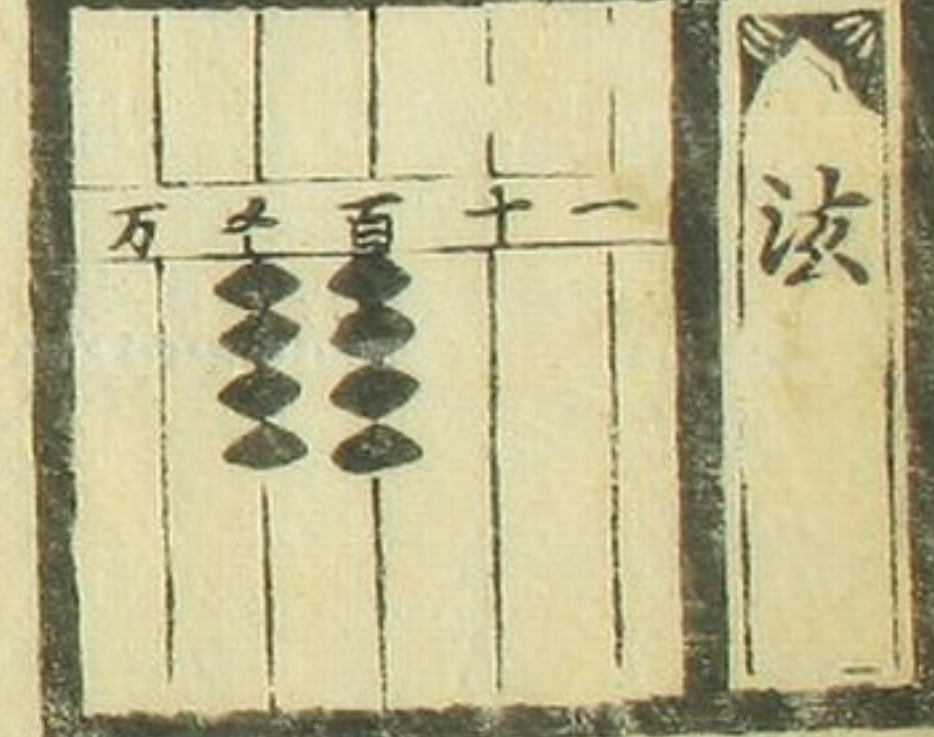
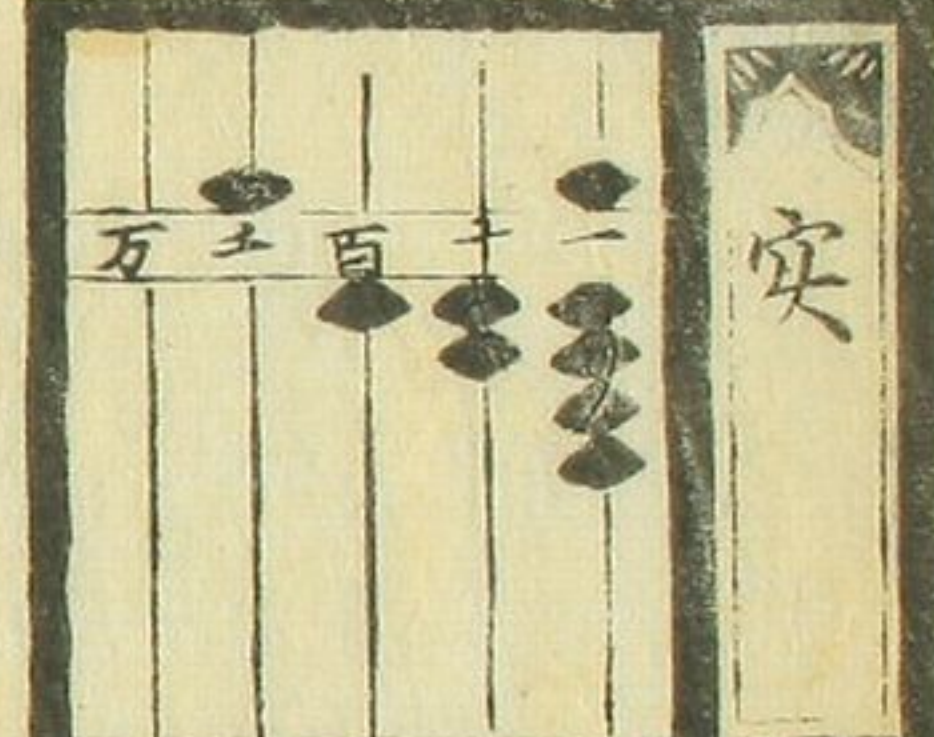
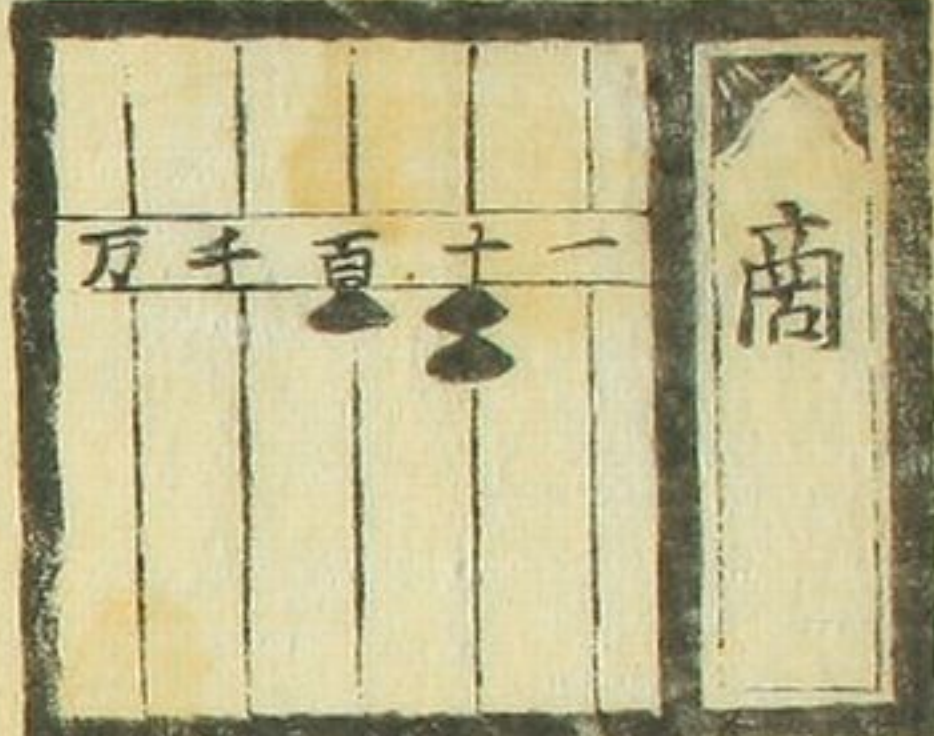
下方

万 千 百 十 一

百九坪

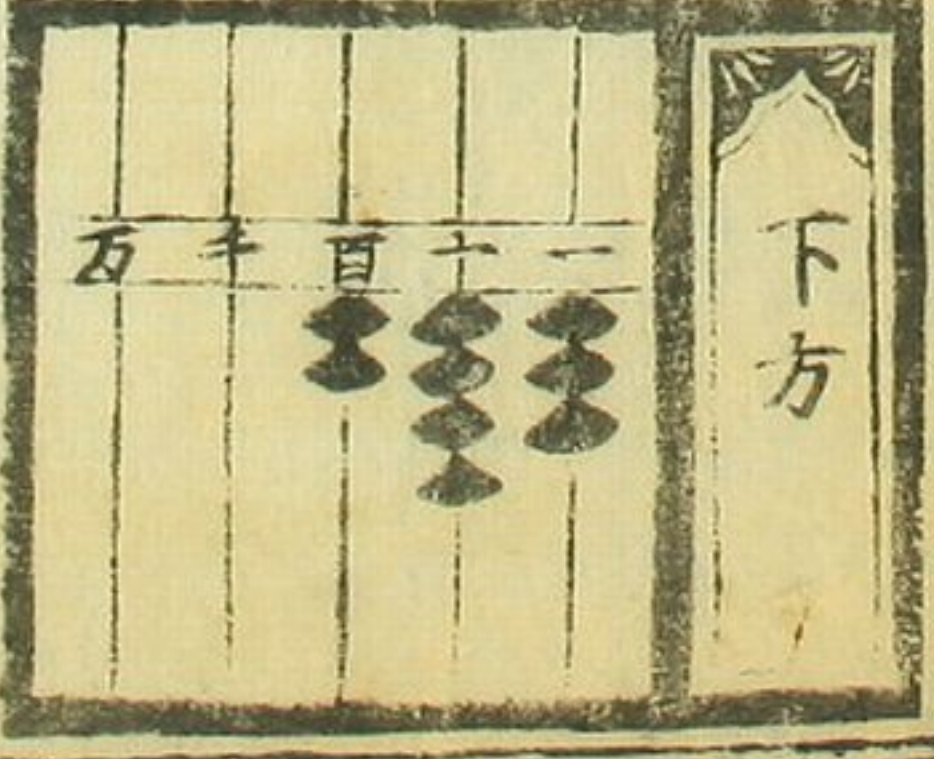
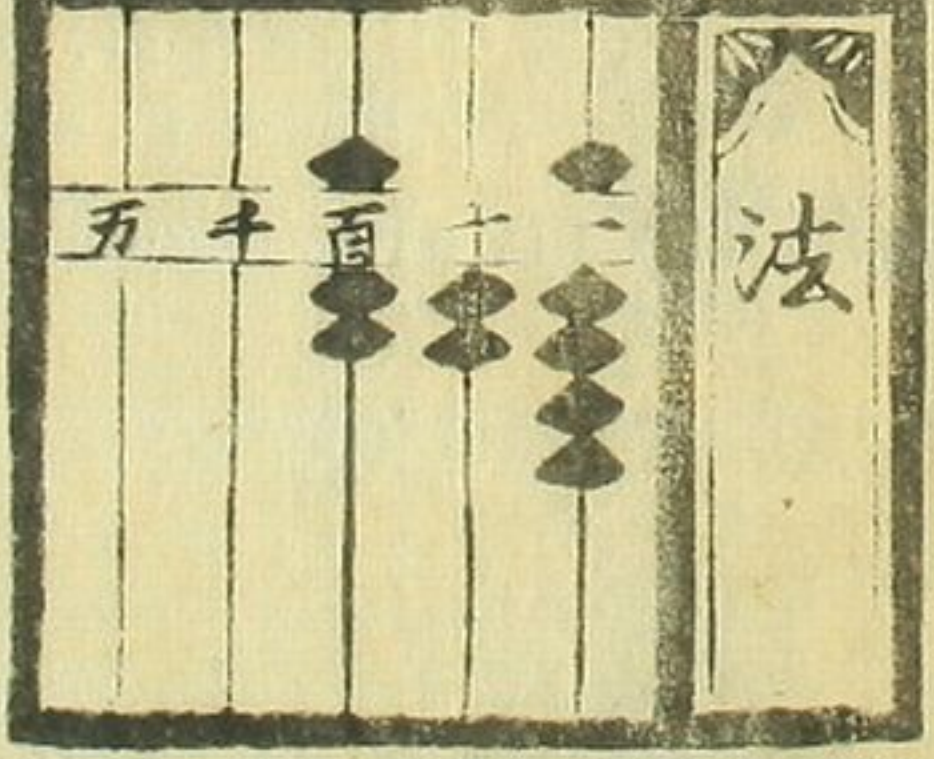
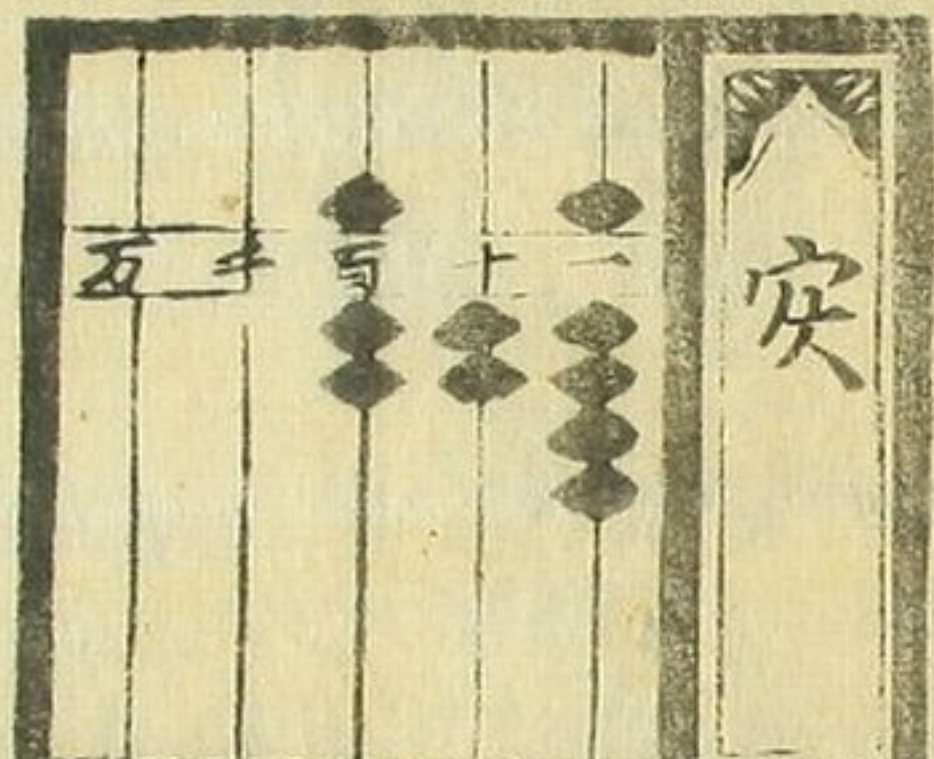
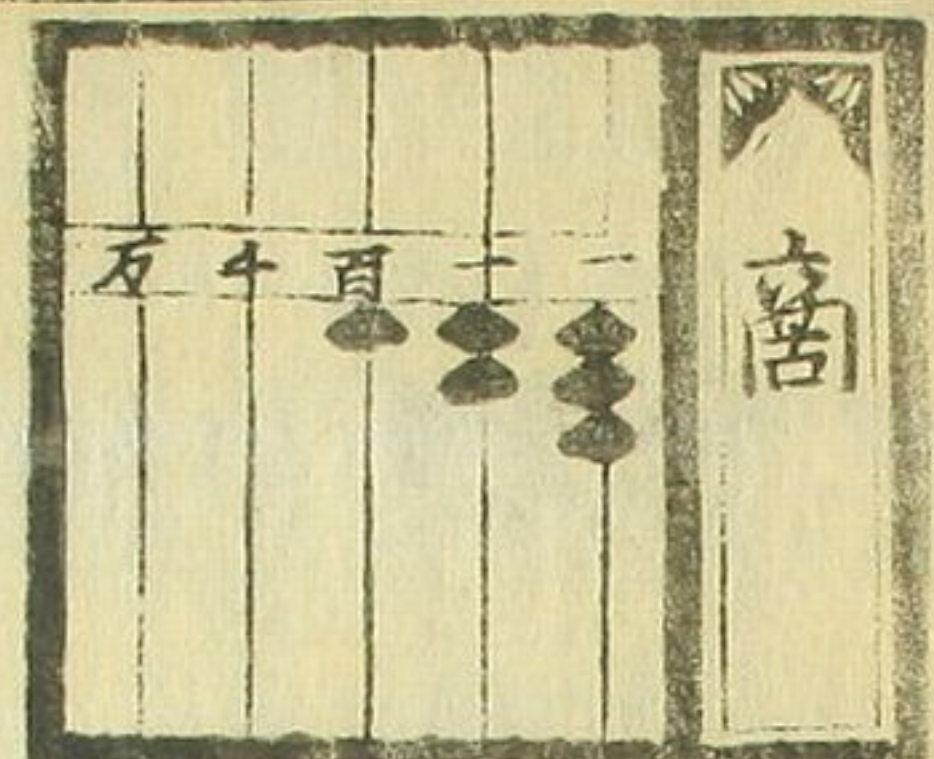
万 千 百 十 一

實小一万又百九坪と云は倍方と云
一千百十百と云ふ小は倍方と云ふなり
は百の倍と云ふ高小百と云ふ板下法と云ふなり
又一千百と云ふなりと云ふと云ふは法と云ふは倍の百
高の百と云ふなりと云ふは實て除き事
御りてみよ百九坪と云



四
一
万
坪
百
三
州
置
二十坪

商此百の次り二十と云え下法の一
位にけり百と一倍ありて此百と云い下
又たと云え法より右の位より商のた
より小三三の二一の位より百と實
を引ぬ
實より引りて七百九坪なり



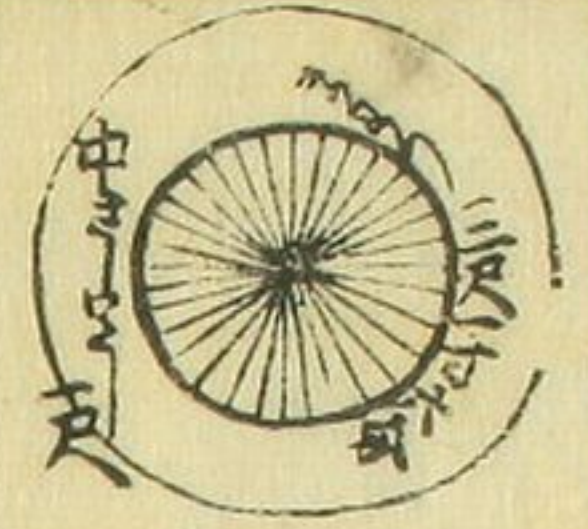
百
三
万
坪
三
百
坪
三
百
坪
三
百
坪

商此百の次り三と云え下法の一
位にけり百と一倍ありて此百と云い下
又たと云え法より右の位より商のた
より小三三の二一の位より百と實
を引ぬ
實より引りて七百九坪なり

百七三万七千方なり也

第廿

用平回法の事



二寸四方坪ありし七百七十九坪の時用平回法おま
てさうりつゝあふりくあうそいりつ時ふ
さうりつゝ三尺とりて法お七尺七寸上坪と
四法七九ありし九百坪ありしと用平を以て
これとのをけじさうりつゝ三尺とさしし地

七九とさし事へ回さうりつゝ一尺あり二寸の坪
七十九坪をさしと二尺ふしれはさうりつ又五分と
二尺ふしれはさうりつこれおさうりつとわかれは九尺とさし
れは三尺二寸五分とわかれ七十九坪ありし地

一尺三寸四方ありし七百七十九坪の時
あふりくあうそいりつ時
法お七尺七寸上坪とわかれ
さうりつゝ一尺三寸五分とわかれ

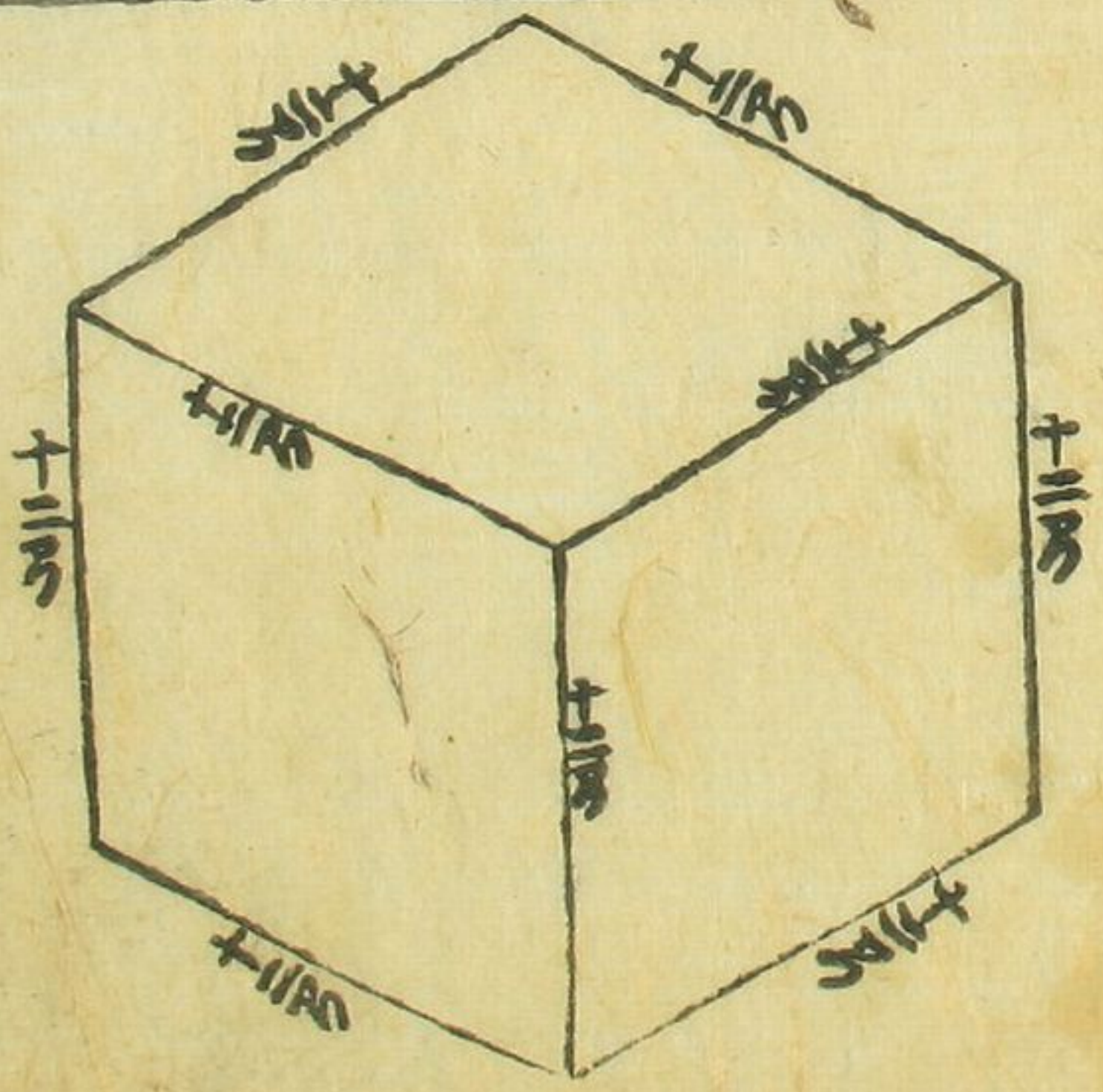
第廿

用立法の事

▲坪敷を七百七十九坪を

これをたてしとさし
おあしだけし
てあふりくを
りし時ふ

坪敷を六百七十九坪を



社數三七兩中圍甚色赤似丹人集如市



鐘音百八人間福祿深抽意志誠企社參

寬永癸未仲夏日
西村又九清の板行

此新編塵劫記 吉田光由 用板鑿
 粹以壽其傳自今以後行于世
 為筆法指執者如合符以即
 後生勲梅勿輕忽



